

みうらトーク&トーク 第2弾

日 時 平成19年7月24日（火） 19時10分から20時10分

参 加 者 三浦商工会議所青年部14名 市側 6名

テ ー マ 三崎下町振興について

団 体 三浦商工会議所青年部

団体の紹介 地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い次代への指導者としての責任を自覚し、地域の経済発展の支えとなり新しい文化的創造をもって豊かで住み良いまちづくりに貢献している。



内 容

意見交換

（市 長） 今回のテーマ『三崎下町振興について』は、2回目になります。

本日、下町再生委員会の初会合を行いました。市の方で考えるうえで関連するメンバーに加わって貰っています。これから市として何を目指していくか、これから動きが出て来ると思います。

市としては、出来る限り即効性のある下町振興策を考えていきます。うらり周辺や駐車場、北条湾のハード的なものは、県や東部漁港事務所と調整をしています。

地域としては、西銀座、岬陽商店街、海側では、宮川から二町谷を考えています。関連する問題点については、個々に取組みを考えています。

今回、みなさんから質問が出ているので、最初にお答えします。

質問 1 エリアの定義

下町と明記してありますが、どこまでを下町とするのか？ 岬陽地区、諏訪地区、油壺地区などは、含まないのか？

↓

(市 長) 下町再生と言う観点から言うと宮川から二町谷、商店街では、岬陽商店街も下町地区に近いので波及出来るように考えています。

質問 2 再生の定義（ゴールの明確化）

委員会発足にともない、何を持って再生とするのか、行政側からの明確な定義付けして欲しい。

↓

(市 長) 行政主導の計画になるとハード整備が中心になってしまいます。

ハード整備は、限られた財源の中で行っていきたくて考えていますが、年数がかかりますし膨大な費用がかかるので出来ることから行っていきたくて考えています。

民を起点として行政と一緒に取り組んで行くまちづくり全体のイメージを持っています。

まず、解決しなければならないのは、商店街の活性化、人の流れ、海辺の地区の整備など幾つかのテーマがありますが、一辺に行おうとしてもなかなか出来ないと思います。

再生の定義ですが大きなまちづくりの定義では、都市マスタープランやみなとまちビジョンと言うものは持っていますが、それとは違い、下町の再生として即効性の役割を持たせていくことが主旨ですのでゴールの明確としては、現状ではなかなか難しいです。

質問 3 再生計画策定における、行政との情報の共有化

19 年度中に、計画案を立案するにともない、行政との素早い情報交換が必要だと思われ
ますが、スピーディーな情報の共有を実現出来るのか？

↓

(市 長) 19 年度中に、再生委員会を起点として、様々な計画案を立案するに伴い、行政との素早い情報交換が必要だと思い、スピーディーな情報の共有を実現出来る仕組みをするために事務局を民間に委ねないで行政が事務局を行ないます。

質問 4 再生計画案の審査機関と期間

委員会によって出来上がった再生計画を第三者機関の審査を入れないのか？それと、十分な期間がとれるのか？

↓

(市 長) 民間と行政が連携して、出来ることからやろうというイメージを思っているので、第三者機関の審査を入れるつもりはありません。下町に即効的効果が出るものを考えたいと思いますので期間は1年とか2年の短期間のスパンで効果が出るよう考えています。

質問5 マスタープランになった後、計画の実行中ならびに実行後の検証

計画を推し進めるに当たり、現状の報告ならびに、計画実行後の結果を検証する機関をどうするのか？そして、どのように報告するのか？

↓

(市 長) 再生委員会のメンバーや計画を加わっていただいている方々に計画実行後の検証等を報告するとともに、市のホームページ等により、官民協働一体で取り組んでいることを市民の皆様に報告していきます。

身のあるものにしたいと思っているので、皆さんのご意見をいただきたい。

(市 長) 前回の話しに出た、うらり周辺の客引きについては、現状はどうか。

(青年部) 客引きは、土曜日、日曜日は特に多い。店の前だけでなく歩き回っています。

(市 長) うらりに集中している人たちの流れを変えることが必要だと考えます。みうら映画舎のお店が出来たことについては、人の流れを変える効果だと思います。空き店舗対策、散策路を作ることも必要だと思います。

(青年部) 商店街に観光客が歩いて何について三崎らしさを感じられるか、今のお店屋さんを考えると観光客は、なかなか足を運ばないのではないかと思います。

(市 長) 例えば、流れを作る手段として、空き店舗を無くすのは当然ですが、魅力ある店舗作りが必要だと思います。

(青年部) 今までの回遊構想は、みんな失敗しています。観光客は、三浦市へ来る目的が決まっています。その目的を、果たし帰って行く状況です。

そこで、何が効果的か考えると、やはり食事する以外の魅力ある店舗作りだと思います。みうら映画舎はその第一歩だと思うし、これから私達が行っていくべきことは、人を集めることだと思います。

(市 長) 回遊構想が無理というのなら、例えば魅力ある店舗作りで人が廻ってくれるのが究極の目標だと思います。

(青年部) 魅力ある店舗作りというが、それは、商売を鞍替えすることと表裏一体だと思います。それは、なかなか難しいと思います。

(青年部) 先日、お天王様の時にみうら映写舎で店番をしていた時に思ったのは、単純にテーブルが置いてあって写真が飾ってあるだけですが、観光客は喜んでいました。

留って旬の情報を提供する場所がない、その中でみうら映画舎は、テーブルも置いてあってオープンになっているので入りやすい。山ほど積んであったチラシが、ほとんど無くなっていました。そこから人が流れていっていました。

(市長) それは、三浦市の情報観光センターというイメージですか。

(青年部) そこまで考えていないが、各店舗の情報が入りリラックス出来る場所が必要だと思います。お金をかけなくても、座って情報が提供出来るものでも良いと思います。

鉄火巻きの時にも、三浦市の観光チラシが、結構、はけていました。

(青年部) 鉄火巻きの経済効果は、どのくらいあったのか。

(青年部) 三崎に来て、鉄火巻きを食べて帰ってしまうなら、効果は、余りないように思います。

(青年部) 下町商店街の活性につながるものは、まず、最初に個々の商店のやる気だと思います。また、商店街そのものの活性化を考えるなら大きな要因は人口を増やすことだと思います。人がいなければ商店街がさびれていくし、下町の人口も、どんどん減っていきます。

(市長) 官民協働でやる気を出して貰うために、地元が核になって盛り上げていく気持ちになって貰うことが必要だと思います。行政指導ではなく、下町全体をみんなで盛り上げることが必要で、それには、みなさんみたいな若い人に底上げをして貰いたい。

先ほど、人口を増やさないといけないという話がありましたが、それは、三浦市全体の命題ですが、下町地区に人口を増やすことは、現実的には、極めて難しいと思います。

下町は、三崎の港として再生する手段が一番良いのではないかというのは、私の考えですし、再生は可能だと思います。

(青年部) 個々の商店の形体ですが、住宅地の商店街なのか、観光地の商店街なのか住み分けが必要だと思います。区分をはっきりしない限り人の流れは、変わらないと思います。

わざわざ、東京、横浜から来た人が、日用品は、なかなか買わないと思います。先ほどの商売を鞍替えになるので、すごく難しい問題だと思いますが、ここにしかないものを作るとかすれば、人の流れも戻って来ると思います。

結局は、どちらの商店街を優先するのか明確にされないと共倒れになってしまいます。

(青年部) うらりには、駐車場が隣接しています。すぐ近くで食事出来るし、お土産も買えるので、ここで完結してしまいます。

(青年部) 話がもとに戻りますが、再生委員会をイベントの行う委員会にすることは、考えていな

いのか教えてください。

(市 長) 大きなイベントは、商工観光課や営業開発課が行っていますので、考えていません。

委員会は、知恵を出して貰い、実際の実務は、行政や任意団体が発足するなり個々の商店が行うイメージをもっています。

今後、青年部のみなさんに期待することは大きな意味合いがあると感じています。

(青年部) 商店街にお客を流したいという話ですが、それは、商店街から話があったのか、それとも活性化の悩みのもとなので行政から出た話なのか教えてください。

(市 長) うりだけで完結してしまうと、下町全体の経済波及がないと思います。それは商店街の要望でもあるし、行政としても良い考えだと思いましたが双方の意見が合つての動きです。当然、城ヶ島の活性化の問題もあるので、今後、再生委員会の中で渡し舟をやったらどうかなど議論も出ると思います。

(青年部) 下町の商店街の人たちが行政にどれだけ期待し、商店街自体がどれだけやってくれると思いますか。

(市 長) 行政に対して期待は、少ないかもしれないが、頑張っていきたい。行政で補えない部分は、商店街で、やってもらうように盛り上げていくようにしないといけないと思っています。

(青年部) 三浦市が再生計画を一緒にしようと言った時に一緒に動いてくれるか心配な部分もあります。

(市 長) やってもいないところで、出来ないとは言いたくないし、是非、やりたいと思っています。

(青年部) 鉄火巻きを2年やって多少の光明は見えたと思います。今まで参加していなかった人たちが共通の意識をもったことは、少しであるが一步前進したことだと思います。

(市 長) 三浦が持っている財産として、三崎に行けば、港があり、美味しい鮪が食べられるし、美味しい海産物や農産物が買えるイメージがある。これは蓄積してきた大きなメリットだと思います。

新たな新産業をおこすのは、現実的には厳しいです。それ以上の三浦の持っている良さを活かすことが、我々のテーマだと思っています。

三浦の利点をどんどんアピールすることが必要で、三崎に来れば美味しい鮪が食べられるといったイメージを拡大し、特色のある商店街を作ることが必要だと思います。

街がひとつになって活性化をしていきたいという思いを、段階を踏んで作りあげていき

たいと考えています

(青年部) 人が流れない原因は何だと思えますか。

(市長) うらりと駐車場が隣接し、そこで完結してしまうことが、ひとつの要因だと思えます。

(青年部) うらりが出来る前から商店街に人は流れていないと思えます。

(市長) 一時、観光客が減って、うらりが出来てから人が集まる仕組みが出来てきました。まぐろ倶楽部の活動などの町おこしが功を奏してきています。

(青年部) 今の市場を作った時から始まった、その後にうらりが出来、人が集まるようになったが、そこだけになってしまっています。

(青年部) 産直センターに人が集まるのは、当たり前だと思えます。たしかに商店街の問題はあるが、うらり自体がなかったら、もっと観光客が少なくなると思えます。

(青年部) 和歌山県の黒潮市場は、鮪の解体ショーを行ったり、取った魚をその場でバーベキュー出来たりしています。それを目当てに来る観光客も多いと思えます。

(青年部) うらりに来た人、うらりから商店街に流れていった人のリサーチを行なった方が良いのではないかと。

(青年部) リサーチしなくても、大体、分かります。実際にうらりに車を置いて商店街に足を運んでいる人も多い、ただ、その人達は、食事をする目的のために商店街に足を運んでいます。観光客を引き付けるお店が飲食店以外少ないと思えます。

観光バスで来ている人は、時間に制限があるので、商店街の方には、なかなか行かないと思えます。

(青年部) 下町にお金を落としてくれるのは、観光客だけがターゲットなのか、商店街の活性化は月曜から金曜日をどうするかだと思えます。

(青年部) まちづくりということではなく、一店舗一店舗を特化していくことを考えてはどうか。

(青年部) 毎年、一店舗を特化して成功すれば、他の人もやる気を出して貰えると思えます。

(市長) 商工会議所にTMOの事業として330万円で委託しているので、その結果を市民に返して貰えるよう考えている。

公として出来ることは、助成などであるが、個々の意見は、下町再生委員会が発足しましたので、その中に若い人たちが参加していただき、やっていくことはオープンにして情報も共有化していきたいと考えていますので、今後とも協力お願いします。

(事務局) 本日は、お忙しい中、貴重な意見をありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。これでトーク＆トークを終了します。

※ 団体名の公表については、了解を得ております。